

## B-7

出展団体名	鹿児島大学	
発表者所属	鹿児島大学水産学部	
発表者氏名	安藤 清一	
発表タイトル	海産未利用資源ヒトデの有用酵素	
ねらい	<input type="checkbox"/> ビジネスパートナー探し <input type="checkbox"/> 共同研究パートナー探し <input type="checkbox"/> 共同製品開発のパートナー探し <input type="checkbox"/> 所有技術シーズの顧客（ライセンス）探し <input type="checkbox"/> その他（ ）具体的に	
キーワード	①水産廃棄物	②バイオマス資源
	③トリプシン	④有用酵素類
要 旨（アピールポイント）		
<p>養殖水産物の食害生物として、年間15,000トン以上が駆除・廃棄されているヒトデ類は、有用水産バイオマス資源であり、その有効利用が強く求められている。</p> <p>これまでにヒトデ内臓からトリプシン、カルボキシペプチダーゼB、ホスホリパーゼA<sub>2</sub>等の各種有用酵素類を単離し、それらの基本的性状を明らかにしてきた。</p> <p>ヒトデトリプシンの活性化や安定化にはカルシウムイオンが不要であり、また温度安定性も哺乳動物にくらべて低いことから、低温食品加工への利用が期待される。</p> <p>イトマキヒトデ内臓由来のホスホリパーゼA<sub>2</sub>活性は、市販ブタ膵臓酵素の約30倍、工業用酵素の約3倍であり、極めて有用なホスホリパーゼA<sub>2</sub>供給源となる。</p> <p>ヒトデ内臓由来の各種酵素類は、牛海綿状脳症の影響から利用が制限されている哺乳動物由来の酵素類の代替になり得ることが期待される。</p>		
特記欄	ヒトデ由来新規トリプシンおよびその利用（特願2005-099448）	